

日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査委託事業*の概要

山本隆司

本調査の詳細は、水産庁より平成11年度日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査委託事業報告書として印刷公表されるので、ここではその概要を記す。

1. 目的

北太平洋海域のマグロ類等の漁獲データ・生物学的情報等の収集・解析を行い、北太平洋のマグロ類等の資源評価に必要な基礎資料を収集することを目的とする。

2. 調査の概要

(1) 沖縄県のまぐろ漁業について

県内の主要なまぐろ漁業は、沿岸まぐろ延縄漁業と曳縄漁業で、平成9年次の農林水産統計年報によると沿岸まぐろ延縄漁業の漁獲量は8430トン、曳縄漁業の漁獲量は3021トンで横這い傾向となっている。沿岸まぐろ延縄で漁獲されるまぐろ・かじき類は県全体のまぐろ・かじき類漁獲量の71.3%を占め、曳縄漁業では25.7%を占めている。魚種別にはピンナガが県全体まぐろ・かじき類の42.0%、次にキハダが26.0%でピンナガの増加が顕著である。

(2) 1999年のクロマグロおよび他のまぐろ類の漁況について

糸満新港への水揚げ尾数は、平成4年(4月9日～7月23日)が630尾、平成5年(4月11日～7月12日)が400尾、平成6年(4月6日～7月15日)が541尾、平成7年(4月27日～8月7日)が86尾、平成8年(4月25日～7月10日)が540尾、平成9年(4月24日～7月11日)が552尾、平成10年(4月24日～7月3日)が456尾、平成11年(4月14日～7月2日)が891尾となり、過去最高の水揚げとなった。

今年の盛漁期は、例年と同じく5月中下旬であった。

(3) 1999年の調査について

(3)-1. 伝票集計

糸満新港、糸満、那覇地区、県漁連の各市場の水揚げ量を調査をした。糸満新港市場ではクロマグロのみを、他の市場では魚種・銘柄別(クロマグロ、キハダ、キメジ、キメジ小、シビ、メバチ、ダルマ小)の水揚げ量を調査した。糸満新港に水揚げされるクロマグロは全量把握したが、その他の市場に水揚げされるマグロ類の内、県内でセリにかけられた分のみ集計し、直接本土送りされた分については、漁協・漁連に伝票がないため、集計していない。集計データは、日本エヌ・ユー・エス(株)に送付した。

(3)-2. 魚体測定

1999年4月から7月に糸満新港に水揚げされたクロマグロの体長を測定した。全体の抽出率は91.4%であった。体長範囲は、118cm～227cm、体重範囲は、51kg～257kgであった。測定データは、日本エヌ・ユー・エス(株)に送付した。

(3)-3. 生殖腺の標本採取

今年度は、891尾の中から雌45尾分について卵巣のサンプリングを行ない、遠洋水産研究所に送付した。

(3)-4. 調査担当者

| | | |
|-----------|-------|-------|
| 伝票集計 | 主任研究員 | 山本 隆司 |
| 魚体測定・標本採取 | 嘱託員 | 比嘉 清次 |
| | 嘱託員 | 井上 顕 |

* 本調査は、水産庁からの委託調査である。

(4). まぐろ類の調査における問題点

糸満新港に水揚げされるクロマグロは一業者が本土送りをしており、この業者から水揚げ量を調べているが、泊港（那覇地区・県漁連）水揚げの直接本土送り分については、本土送り業者が多数あり、集計は困難である。

(5). まぐろ類に関するトピックス

特になし。